

# 令和4年度 南陽東中学校 学校努力点

## 1 主 題

「仲間と学び合い、互いに認め合う生徒の育成」

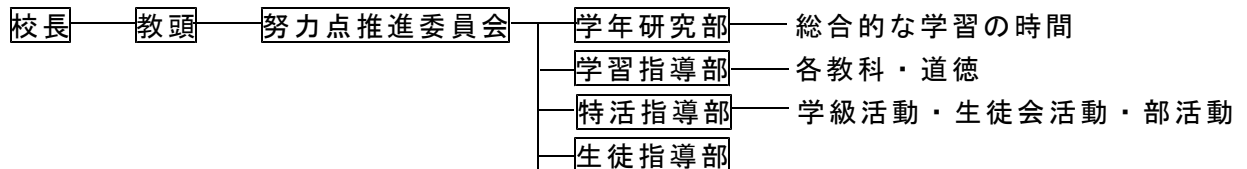
## 2 主題設定の理由

本校は一小一中の小規模校であり、学区にはラムサール条約に登録されている藤前干潟を有し、名古屋市内の中でも比較的豊かな自然の残る田園地域に位置している。生徒は素直で純朴であり、アットホームな雰囲気の中、落ち着いた学習環境を保っている。一方で基礎学力が身に付いていない生徒が多く、全国学力・学習状況調査の結果は例年全体的に努力を要する状況である。

この実態を踏まえ、昨年度はこれまでの「なかまなビジョン」の内容を踏まえた授業展開の取り組みを引き継ぎつつ、指導者用タブレットなどのICT機器の活用場面を増やし、生徒の学習意欲を高めることを目指した。しかし、実態を見ると学習意欲の低い生徒がまだ多く、学校評価アンケートにおける「分かりやすい授業」の項目で教職員のポイントが高まったものの、生徒や保護者との間に意識の差が見られることや、学習者用タブレットが十分に活用されていないという課題が残った。

そこで今年度も引き続き、仲間と対話する授業展開に学習者用タブレットなどのICT機器の活用を位置付けた努力点に取り組み、仲間と学び合いながら、「できた」「分かった」と実感できる授業づくりを更に進めていく。そうすることで学校全体の授業力を高めていくとともに、主題に迫っていききたい。

## 3 研究組織図



### 《学年研究部》

総合的な学習の時間を中心に、主体性を発揮できる場を設定し、達成感を味わわせる。

### 《特活指導部》

行事を通して、自分と仲間のよさに気付かせ、互いに認め合い、高め合う心や態度を育む。

### 《学習指導部》

基礎学力の定着を目指すとともに、「学び合い」を通して自他の考えのよさに気付かせる。

### 《生徒指導部》

自己肯定感を高め、良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力の向上を図る。

#### 4 努力点研究推進計画

一 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・努力点の設定</li> <li>・生徒の実態把握</li> <li>・各教科教育課程・評価規準の作成</li> <li>・道徳授業参観、土曜日授業の設定と実施</li> <li>・授業実践 <u>※各自研究授業の実施</u></li> </ul>
二 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業実践と中間まとめ <u>※各自研究授業の実施</u></li> <li>・体育大会および生徒会種目の計画と実施</li> <li>・合唱コンクール・作品展の計画・実施</li> <li>・人権教育の推進</li> <li>・学校評価アンケート（中間）の実施と分析</li> </ul>
三 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験学習の実施 <u>※各自研究授業の実施</u></li> <li>・3年生を送る会の計画と実施</li> <li>・授業実践と研究のまとめ</li> <li>・学校評価アンケート（年度末）の実施と分析</li> <li>・次年度に向けての努力点設定および推進計画の立案</li> </ul>

#### 5 努力点推進の具体的な方法

- ① 各教科の指導におけるICT機器の効果的な活用について具体的に紹介する。  
(教務主任)
- ② それぞれの教科において各自のテーマ(目標)を設定する。
- ③ 単元や一時間の授業において「ICT機器を活用した場面」を位置付け、授業の工夫を図る。
- ④ 各自、指導案(略案)を作成し、年間を通して1回研究授業を行う。  
※ 指導案は教育センター「学習指導案参考例集」を基にする。  
→ 授業実践の日時を朝打ちで知らせ、空いている教職員で参観する。その後、参観者と授業者で検討会を行う。
- ⑤ テーマ(目標)と取り組みの方法、成果、今後の課題については紙面等で発表する。中間発表とまとめを行い、取り組みの内容の共有化と意見交換の場とすることで、授業の改善を図っていく。

#### 6 取り組みの日程

- ・ 4月下旬まで 各自、テーマ(目標)と取り組みの方法を決定し、教務に用紙を提出する。
- ・ 5月 実践の推進  
各自研究授業の実施(年間を通して1回)
- ・ 10月頃 職員会にて中間発表(代表者が発表等)
- ・ 11月頃 方法の修正とさらなる実践の推進
- ・ 2月中旬 努力点のまとめ(紙面等)